

身体障害作業療法学実習

[実習] 第3学年 前期 必修 1単位

《担当者名》○坂上哲可 tsakaue@hoku-iryo-u.ac.jp 本家寿洋 桜庭聡

【概要】

解剖学、生理学、運動学、身体機能評価学で学んだ知識を元に、身体障害作業療法の評価技術、治療技術を修得し、実践に繋がる臨床技術を修得する。

さらに、後期に実施される臨床実習を想定し、評価・治療技術のみならず対象者への配慮、学生としての基本的態度を学び、OSCE（客観的臨床能力試験）を実施する。

【学修目標】

本実習の目的は、身体障害作業療法を実施していく上で必要な基礎技術を修得し、対象者への応用技術の獲得に繋げることである。

一般目標

1. スプリントを製作方法を学ぶ。
2. 車いすの機能と構造を学ぶ。
3. 作業療法士に必要な治療技術を獲得する。

行動目標

1. スプリントの製作方法の説明ができる。
2. スプリントの適切な作成ができる。
3. 車椅子骨盤支持モデルの理解と説明ができる。
4. 脳血管障害のADL評価・治療法の理解と説明ができる。
5. 対象者の安全を考慮した行動で評価に臨むことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	授業シラバスの説明	スプリント制作、リハ工学、脳卒中の評価・治療、OSCEの実施について	坂上哲可
2) 12	スプリント制作	手の外科領域で使用するスプリントの制作過程を理解し、採型方法を学ぶ。 スプリントのチェックアウト及び修正方法について学ぶ。	坂上哲可
13) 14	車いす骨盤支持モデル	車椅子骨盤支持モデルと胸郭支持モデルのメカニズムについて学ぶ。	西村重男（特別講師） 本家寿洋
15) 17	脳血管障害の治療	脳血管障害の心身機能に関する治療法について学ぶ。	桜庭聡
18) 20	脳血管障害の治療	脳血管障害の活動・参加に関する治療法について学ぶ。	本家寿洋
21) 23	身障OSCEの実施	身障領域のOSCE（起居・移乗動作）を実施する。	担当教員全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

スプリント制作の他、OSCE並びに学期末定期試験（筆記試験）で評価する。各項目の評価の割合は、スプリント制作（10%）、OSCE（20%）、学期末定期試験（70%）とする。

疑問点、理解が不足していると感じた点などは、自ら教員室に足を運んで解決するように努めること。

【参考書】

「姿勢と動作 第3版」

「新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際」
「OT 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 [第3版]」
「OT 標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学」
「OT 標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 [第3版]」

【学修の準備】

予習：事前に身体機能評価学、評価学実習、日常生活援助学 で学んだ内容を再学修をして授業に出席すること（80分）。
復習：実技演習は1人で行うよりも複数人で行った方が効果的に学修できるので、学習した内容はクラスメイト同士で確認しあうこと（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

坂上哲可（作業療法士） 本家寿洋（作業療法士） 桜庭聡（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。